

(6) 余市高等学校の運営計画

校 長 今 堀 浩

2023-2024 年度年間聖句

「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」

～ルカによる福音書 12 章 32 節～

I. はじめに

2023 年度の 1 年生入学生数が 59 名であったことは重く受け止めなくてはならない事態です。その要因の一つとして、2022 年度は後志・札幌圏の中学校や適応指導教室への訪問活動ができなかったことがあると考えています。今年度は計画的に準備し、1 学期から定期的に訪問活動を行い、出身生徒の成長や近況報告、場合によっては指導の経過などを説明することで、余市高の教育を理解してもらう活動を進めていきます。

2022 年度より本校の宗教主任として赴任した高濱梨紗先生が、余市高の基督教教育を発展させています。礼拝の司会に生徒を登用したり、クリスマス礼拝により宗教的意味合いを加えるなど、余市高全体に向けた宗教的影響を意識した活動を行っています。

II. 教科教育

(1) 授業のあり方を点検し、質の向上を図る

グループ学習や ICT を活用し、能動的に取り組む機会を増やす授業を目指します。テストによる点数のみの評価ではなく、レポートをまとめる力や幅広い視点で考えることができる力を評価する仕組みを検討していきます。

(2) 地域と繋がりながら学ぶ

総合講座の「ぶどうのお仕事」では地域のワイナリーの協力を得ながらワイン醸造ができるところまでできました。この講座の取組みは確りとプレスリリースをしながらスポットを当てていきたいと考えています。また、今年度から赤井川村の「カルデラ太鼓保存会」の協力を得ながら学んでいきます。初年度ということもあり、どのような発表の場が作れるか模索しながら進めていきます。「創作」では、余市町の小中学生を対象に絵画イラスト教室を開いている作家の福井理子先生を講師に招いています。クラブ活動では、余市在住の書家の中村好江先生に、書道部の指導をお願いしています。

(3) 執行部を中心とした自主活動を年間行事に組み込みクラスとして取り組む

学校行事の多くは、主催が生徒会執行部となっています。これらの取組みの意義を執行部が理解することが大切になります。評議員会や生徒総会のあり方も改めて社会科を通じて生徒に理解させ、主体的に関われる雰囲気醸成していきます。また各行事の準備期間では、クラスごとの取組みが他者との関わりを学ぶ機会となるため、課題解決や進め方などを学ばせる機会とします。

(4) 実用英語技能検定や漢字検定受験の促進

実用英語技能検定や漢字検定については、準会場として受験可能なため、資格取得として関心のある生徒に案内し、勉学意欲の向上を図ります。

Ⅲ. 生活指導

(1) 複雑化・多様化する事案に対する体制づくり

近年、非行系の生活指導が減少している反面、いわゆる発達障害に由来する生活指導事案が増えています。主に、他者とのコミュニケーションを通じた関わりが苦手であることから相手の意図を汲み取れない生徒が多くなっています。仲介に入ったり、事柄を噛み砕いて説明するような教員の関わりが増えてきています。さまざまなケースに対応するためには、教員の経験や知識が必要になります。そういった知識を得る機会やケース対応の力量を上げる研修を進めていきます。

(2) 集団づくり教育の実践

起こった問題や課題を当事者内だけで解決するのではなく、クラスや学年、ケースによっては全校で考える機会を設けます。自分の所属する集団（クラス・学年・寮・学校）で起こったことに対して、当事者意識を持てるような説明を行いながら考える機会を設けていきます。そのような機会を積み重ねて行くことで、個も育つ「集団づくり」を目指していきます。

Ⅳ. 進路指導

(1) 選択肢を幅広く持つことができるような進路指導を展開する

進学や就職に限らず、さまざまな生き方を紹介することで、自分の将来をイメージする事ができるような機会を設けます。具体的には、焚き火カフェ（進学、就職、転職、留学、企業などさまざまな大人からそれぞれの考え方や面白さ、難しさなどを小グループで聞く）や宮の森病院のインターン、マイナビによる志望理由書の書き方、JS コーポレーションの模擬面接、大地リースの重機体験、(株) モンテカルロによる職業別ガイダンスなど、将来をイメージしやすい学びの場を提供していきます。

(2) 高大連携事業の点検と、学内進学者の増加を目指す

地理的な距離はありますが、大学や短期大学部と一緒にできる事業を模索し、連携を図りたいと考えています。出前授業や学生と一緒にを行うフィールドワークなどは、大学の雰囲気を知る良い機会となります。関心を持つことで、生徒にとって進路の選択肢になっていきますので、オープンキャンパスも含めて大学や短期大学部との関わりを強化していきます。

(3) 進学者に向けた学習支援

大学進学後に数学や英語で苦勞するという話を卒業生から聞くことが少なくありません。教科内で基礎学力向上のための学習支援をどのように行えるか、検討を進めます。また、外部の学習塾の協力が得られるかなど、学内外を問わず幅広く対応策を模索していきます。

(4) 配慮が必要な生徒への支援

配慮が必要な生徒たちの就労支援先として繋がれる団体や施設との連携を進めていきます。

Ⅴ. 募集体制と広報

(1) 入試広報部の配置

2022 年度の体制を踏襲し、専任教員 1 名と嘱託職員 1 名を維持します。1 年間の募集活動を計画し、人員配置を行い、各相談会の記録を保管します。また、学校見学の対応や募集活動に必要な資料データ等の作成・保管・修正等を管理します。

教育相談会には、校長教頭を加えた入試広報部を中心に担当を決め派遣します。派遣人数はこれまでの実績を勘案して、できる限り少人数で展開する予定です。その分手薄だった地区を洗い出し、小さな規模での相談会を企画します。その他、SNS や web ページの管理更新を担い、HP 等での効果的な情報発信を行います。

(2) 外部との連携を通した募集活動

東京で若者支援をしている HASSYADAI、さいたまユースサポートネットワークの青砥恭氏、全国不登校新聞などのネットワークから北星余市の教育を広報し、認知を高めていきます。また、余市高の教育を案内できる講演依頼や研修会には積極的に参加していきます。

(3) 教育相談会から学校見学につながる取組みと学校見学会の実施

2022 年度 81 組の学校見学がありました。また教育相談会には 118 組の参加がありました。

今年度も学校見学につながるような案内を積極的に行い、学校見学を積極的に受け入れ、選択肢として選んでもらえるような活動を行います。

今年度も 9 月と 11 月に学校見学会を開催します。昨年度は、9 月 41 組 110 名（うち受験 17 名）、11 月 21 組 51 名（うち受験 9 名）の参加がありました。学校見学会からの入学につながるような企画を検討します。

VI. 寮下宿の運営

(1) 「家庭的雰囲気の中で生活する」経験を維持する

本校の寮生活は、集団生活の中で成長する教育的効果が期待できます。親でも教師でもない大人に生活をみてもらうことと、同年代と一緒に生活する両面から、生徒の成長を促します。反面、寮下宿内で起こるトラブルなども、管理人と連携を取りながら生活指導の観点を持ちながら指導を行っていきます。

(2) 学校管理寮の運営見直し

男子寮については、これまでの継続といった形で運営を続けます。生活環境を充実させることで、充足率の低さを改善し、収支のバランスが取れるような経営を目指します。

女子寮は、2022 年度末に完成したことから、新入生向けの案内ができずに今年度を迎えました。5 月から入寮者を募集して稼働させていく動きを取ります。こちらも、年度内に定員の 50% 程度の入寮率を目標に案内を進めていきます。

VII. 教員採用計画

(1) 教育理念を継承できる年齢バランスを考慮した採用計画

余市高校では、2025 年度末から 2028 年度末までに連続して 4 名の定年を控えています。また、年齢バランスは 30 代、40 代が極端に少なく、バランスが悪い状況です。そのため、人件費や教育理念の継承という点で課題を抱えていると言わざるを得ません。今後の年齢バランスを考え、30～40 代の教員採用を前提に計画をたてます。

(2) 募集にかかる検討事項

2024 年度の教員募集については、1 学期中にカリキュラムを確定させることが前提になります。そのうえで、2 学期の早い段階で教員の募集準備にかかることが必要だと考えますので、適切なタイミングで募集に取組みます。

VIII. 財務運営方針

(1) 更正予算を踏まえ、必要に応じて再度年間計画を詰め直す

予算執行に際し、できる限り無駄を省けるように留意しつつ、生徒の学習活動に必要な支出を維持します。

(2) 補助金・寄付金の拡充

本部企画広報課とも相談しながら、余市高の教育と合致する項目の管理運営費補助金を可能な限り獲得できるように取組みます。また、寄付金については、マンスリー寄付金の制度を案内しつつ、応援者を増やす努力を進めます。企業寄付については、外部の知恵と協力を得ながら追求していきます。

(3) 生徒募集体制と安定した入学者数

「V.」の項目と連動させながら、適正な入学者数を目指します。年度途中の転入生と2024年度入学生を同時進行で行いますが、引き続き余市高の教育を広報しながら、時期を問わず途中転入生を受け入れていきます。

Ⅷ. 施設・設備

(1) 補修が必要な施設設備の確認と改修計画

施設の多くの箇所に補修が必要な不具合や耐用年数切れが出てきています。全体を通して、どの設備に補修が必要かを洗い出し、計画的な改修計画を組みます。特に生徒の学習環境に影響を及ぼす設備については優先的に進めることも考慮します。複数年にまたがることも想定し、計画を組みながら進めていきます。

(2) 学校管理寮について

本部企画広報課とも相談しながら、余市高の教育と合致する項目の管理運営費補助金を可能な限り獲得できるように取組みます。また、寄付金については、マンスリー寄付金の制度を案内しつつ、応援者を増やす努力を進めます。企業寄付については、外部の知恵と協力を得ながら追求していきます。

(3) 生徒募集体制と安定した入学者数

「Vの(2)」を基本に、収支バランスとして赤字にならないように追求していきます。

以 上